

11 きょうだいとの関係

きょうだいは、個人にとって生涯にわたってもっとも長く継続する親族のひとつといえよう。幼少期は定位家族の一員として密な関係にあり、成人してからは、個人によってあるいは時期によって親密な関係にある者もいれば疎遠にしている者もある。NFRJではきょうだいを、親や子とならぶ中核的な親族の一つに位置づけている。

NFRJ03では、きょうだいに関して、NFRJ98から大きな変更を加えている。第1に、きょうだいの人数を健在と死亡の双方からとらえている点では同じだが、NFRJ03では兄、姉、弟、妹にわけてそれぞれの人数をきいており、出生順位を確定できる。第2に、きょうだいを年長から3番目までに限定し、その一人一人について詳細な情報を収集している点ではかわらないが、NFRJ03ではとりあげる項目を大きく変更している。

本章では、きょうだいのありようは個人の生涯にわたって変わってくることをふまえて、基本的には出生コーホートを軸に分析した結果を報告する。ただし、理解しやすさを優先して、出生コーホートを年齢コーホートとして表示する。

11-1 きょうだいの人数

まず、きょうだいをもっているかどうか、ならびに、もっているとしたら何人かという、きょうだいの人数を確認する。NFRJ03でもNFRJ98でも、調査時点で健在のきょうだいの数と、すでに死去したきょうだいの人数をそれぞれきいている。

健在のきょうだいの人数（本人を含む）は、平均3.24人、標準偏差1.64である。男性の平均は3.26人、女性の平均は3.21人である。出生率の低下を反映して、若年の出生コーホートではきょうだい数は少ない。28-32歳（1971-75年出生）コーホートでは平均2.36人である。一方、調査時点で60歳代にある出生コーホートでは平均4人を上回っている。ただし、健在の人数ゆえ、もっとも高齢の73-77歳（1926-30年出生）コーホートでは平均3.67人である。

健在のきょうだいの人数（本人を含む）の分布（表11-2）をみても、若年の出生コーホートでは「2人」がもっとも多いが、年長のコーホートでは「3人」ないしは「4人」がもっとも多い。全体では「2人」ないしは「3人」というきょうだい数である対象者が多いが、年長では「3人」ないしは「4人」となっている。

表 11-1 きょうだい人数の平均と標準偏差

	28-32歳	33-37歳	38-42歳	43-47歳	48-52歳	53-57歳	58-62歳	63-67歳	68-72歳	73-77歳
平均	2.36	2.47	2.46	2.62	3.11	3.58	4.01	4.07	4.06	3.67
SD	0.82	0.89	1.04	1.09	1.35	1.64	1.92	1.80	2.00	1.90

表 11-2 健在のきょうだい人数の分布

	N	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	不明
全体	6302	8.7	30.6	26.3	15.1	8.5	5.5	2.9	2.0	0.4
28-32歳	625	9.4	53.1	31.5	4.3	1.1	0.2	0.2	0.2	0.0
33-37歳	623	7.4	51.2	32.3	6.4	1.6	0.3	0.6	0.0	0.2
38-42歳	671	10.0	51.7	27.4	7.2	1.9	1.3	0.1	0.3	0.0
43-47歳	605	9.3	44.5	29.9	11.2	2.1	1.7	0.8	0.2	0.3
48-52歳	689	6.8	28.3	33.7	19.2	5.8	2.9	2.2	0.9	0.3
53-57歳	798	6.6	19.8	26.7	22.6	11.7	6.3	2.8	2.9	0.8
58-62歳	747	9.8	12.0	20.9	18.9	17.4	11.0	5.8	4.0	0.3
63-67歳	633	7.9	12.2	18.3	23.1	16.4	12.2	5.8	3.3	0.8
68-72歳	582	9.3	14.3	19.8	17.5	14.8	11.7	6.7	5.3	0.7
73-77歳	329	13.1	17.3	18.2	20.4	12.5	8.8	4.3	4.0	1.5

NFRJ98と比較すると、母集団の年齢層（出生コーホート）が5年幅でずれていることを反映して、NFRJ03の方がきょうだい数が少なく、一人っ子が多い。同じ出生コーホートごとに確認しても、健在のきょうだい数ゆえに、5年前の第1回調査より人数が少ないことは当然予想される。実際にNFRJ98とNFRJ03の各出生コーホートごとの平均人数の差を、後述する世帯動態調査とも比較するために変則的な5歳幅の出生コーホートで確認したところ（表 11-3）、1960年以降出生の若いコーホートでは差はほとんど認められないが、1945-59年出生コーホートでは0.2程度、1944年以前出生の年長のコーホートでは0.4以上と大きい。とりわけ最年長のコーホートではその差は平均で0.88人である。

ここで国立社会保障・人口問題研究所による「第4回世帯動態調査」（1999年10月実施）の結果と比較すると、NFRJ03の健在のきょうだい人数と「第4回世帯動態調査」による健在のきょうだい人数（いずれも本人を含む）の差は小さい。NFRJ03は2004年1～2月に実施しているため、最年長のコーホートで健在の平均人数が0.3人少なくなっているが、その他のコーホートでは差は0.2人以内である。「世帯動態調査」は全国規模で標本規模も大きい信頼性のあるデータであるが、NFRJ03の結果は世帯動態調査の結果ときわめて合致しているといえる。

さらに、第4回の5年前に実施された「第3回世帯動態調査」の結果を参考にすると、5年の調査実施間隔による差を予想することができる。「世帯動態調査」では、第3回と第4回の平均値の差は、1940年以降に出生したコーホートではほぼ0.1以下ときわめて小さい。1939年以前出生のコーホートでも0.3～0.4程度の差にとどまっており、最大でも1925-29年出生コーホートで0.45にすぎない。「世帯動態調査」と比較して、NFRJの5年間の差は大きいし、NFRJ03の結果が「世帯動態調査」と合致していることからいえば、NFRJ98のきょうだい数が相対的に多い可能性が示唆される。

NFRJ98では、まず「あなたは、ごきょうだいを何人おもちですか。あなたご自身は除きますが、亡くなられたごきょうだいは含めてお答え下さい。」と、死亡したきょうだいを含む人数をたずねてから、次の質問で「健在のごきょうだいは何人いますか。」とたずねてい

た。一方、NFRJ03 では、「あなたには、兄弟姉妹（配偶者の兄弟姉妹は除く）がいらっしゃる（いました）か（ましたか）。なくなった方も含めてお答え下さい。」とたずね、「きょうだいがいる（いた）」と「きょうだいはいなかった（ひとりっこだった）」の2つの選択肢のどちらかに○をつけてもらっている。ついで、「きょうだいがいる（いた）」と答えた者に表をみせて、兄、姉、本人、弟、妹、合計（あなたを含めて）の「健在の方」と「なくなった方」のそれぞれの人数を記入するよう求めている。このように質問の形式を変更したことは、きょうだい人数の結果にある程度の影響を与えているようだ。NFRJ98 では、含まないはずの本人が含まれたり、配偶者の兄弟姉妹が含まれたりしたために、健在のきょうだい人数が多くなっている可能性も考えられる。現段階ではNFRJ03の健在のきょうだい人数は信頼できそうだが、NFRJ98との比較においては慎重を要する。

表 11-3 出生コーホート別にみた、健在のきょうだい人数の各調査間比較

	1970-74	1965-69	1960-64	1955-59	1950-54	1945-49	1940-44	1935-39	1930-34	-1929年
【NFRJ03:2003年】										
N	669	633	635	607	705	759	770	625	535	235
平均	2.37	2.45	2.47	2.71	3.28	3.62	4.01	4.09	4.09	3.46
【NFRJ98:1998年】										
N		684	692	708	768	886	772	698	655	615
平均		2.49	2.54	2.92	3.45	3.84	4.43	4.67	4.53	4.34
【第4回世帯動態調査:1999年】										
N	2,526	2,366	2,212	2,311	2,685	2,939	2,596	2,268	2,026	1,677
平均	2.43	2.44	2.52	2.77	3.28	3.70	4.12	4.31	4.19	3.77
【第3回世帯動態調査:1994年】										
平均	2.43	2.46	2.57	2.88	3.31	3.80	4.21	4.59	4.58	4.22

注1：Nは不明を除く。

注2：「-1929年出生コーホート」は、NFRJ03では「1926-29年」、第4回世帯動態調査ならびにNFRJ98では「1925-29年」である。

11-2 きょうだいのなかでの出生順位

冒頭でも述べたように、NFRJ03では兄、姉、弟、妹にわけてそれぞれの健在、死亡の人数をきいた。きょうだい構成を正確に把握するために工夫したものだが、実際には死亡人数を記入してもらった欄は4人に1人が空欄のままとなった。そのため、すでに死亡したきょうだいを含む正確な出生順位を確定することは困難である。

空欄とはならなかった4分の3の対象者に限定して、きょうだいの死の経験を見ると（表 11-4）、若いコーホートできょうだいの死を経験したことがある者は数%にとどまるが、年長のコーホートになるにつれ経験率は高まっている。58-62歳のコーホートでは約半数が経験しており、最年長のコーホートでは4人に3人が経験している。ただし、空欄が該当者がいないことを意味しているのであれば、この経験率は相当低減することになる。

表 11-4 きょうだい死亡の経験率

	28-32 歳	33-37 歳	38-42 歳	43-47 歳	48-52 歳	53-57 歳	58-62 歳	63-67 歳	68-72 歳	73-77 歳
%	4.2	5.8	7.6	9.5	24.0	35.1	49.8	60.5	66.7	73.3

注：N は不明を除く。

ここで再び健在のきょうだいに限定して兄弟姉妹ごとの人数をみると、表 11-5 の通りである。兄弟姉妹ともそれぞれ、6 割が「いない」が、4 人に 1 人が「1 人いる」と答えている。

表 11-5 兄弟姉妹の有無と人数

	N	いない	1人	2人	3人	4人以上	不明
兄	6302	61.7	26.8	7.8	2.5	0.8	0.5
姉	6302	59.0	26.3	9.6	3.1	1.3	0.5
弟	6302	60.0	28.5	8.1	2.1	0.7	0.5
妹	6302	60.6	27.6	8.3	2.2	0.8	0.5

正確な出生順位はわからないが、長男・長女かどうかなど、調査時点で健在のきょうだいの中での親との続き柄を確認することができる。まず男性について、前節と同じく「第 4 回世帯動態調査」の結果と比較するために、変則的な 5 歳幅の出生コーホートごとにみたのが表 11-6 である。調査時点で長男か否かをみると、健在のきょうだいのなかでは 5～7 割が長男である。1939 年以前出生のコーホートを除くと、長男の占める割合はほぼ若いコーホートほど多い。「第 4 回世帯動態調査」においても、5～7 割が長男で、その割合は 1940 年以降の出生コーホートではほぼ若いコーホートほど多い。また、総じて「第 4 回世帯動態調査」より NFRJ03 の方が長男の占める比率が高い傾向にある。30 歳代では 7 割が、40～50 歳代では 6 割が、60 歳代では 5 割強の者が「長男」の立場にある。

女性についても同様に、調査時点で健在のきょうだいの中で長女か否かをみた。女性は単に長女／非長女だけでなく、男兄弟がいる場合と、男兄弟がいないなかでの長女かどうかに分けた。その結果が表 11-7 である。表から明らかなように、1955 年以降出生のコーホートと 1954 年以前に出生したコーホートの間で相違が認められる。すなわち、1955 年以降に生まれたコーホートでは、6 割に男兄弟がおり、2 割強が「長女」、2 割弱が長女ではない。1954 年以前に出生したコーホートでは 7 割以上の者に男兄弟がおり、「長女」は 15% 前後、「非長女」は 1 割前後である。1955 年以降できょうだい数が少なくなってくると、「長女」の立場にある者が 4 人に 1 人を占めるようになっていく。この傾向は、「第 4 回世帯動態調査」でもまったく同じである。親との続き柄の分布をみても、NFRJ03 の結果は「第 4 回世帯動態調査」の結果とよく合致している。

表 11-6 出生コーホート別にみた、(健在きょうだいの中での) 親との続き柄【男性】

出生コーホート	【NFRJ03:2003年】			【第4回世帯動態調査:1999年】		
	N	長男	非長男	N	長男	非長男
1970-74	295	71.2	28.8	1,176	69.5	30.5
1965-69	282	68.8	31.2	1,187	72.3	27.7
1960-64	269	73.6	26.4	1,110	68.8	31.2
1955-59	272	59.9	40.1	1,158	63.2	36.8
1950-54	344	54.9	45.1	1,349	54.8	45.2
1945-49	363	58.7	41.3	1,473	51.5	48.5
1940-44	362	52.5	47.5	1,258	49.0	51.0
1935-39	331	54.4	45.6	1,103	52.2	47.8
1930-34	285	63.2	36.8	964	60.1	39.9
-1929年	94	75.5	24.5	779	70.9	29.1

注1：Nは不明を除く。

2：「-1929年出生コーホート」は、NFRJ03では「1926-29年」、第4回世帯動態調査では「1925-29年」である。

表 11-7 出生コーホート別にみた、(健在きょうだいの中での) 親との続き柄【女性】

出生コーホート	【NFRJ03:2003年】				【第4回世帯動態調査:1999年】			
	N	男兄弟なし		男兄弟あり	N	男兄弟なし		男兄弟あり
		長女	非長女			長女	非長女	
1970-74	374	23.8	20.3	55.9	1,324	23.6	18.8	57.6
1965-69	351	20.5	17.1	62.4	1,167	24.9	17.0	58.2
1960-64	364	24.2	22.8	53.0	1,086	25.9	15.3	58.8
1955-59	333	24.6	14.1	61.3	1,140	21.7	16.8	61.5
1950-54	361	13.6	14.7	71.7	1,316	15.5	13.7	70.8
1945-49	396	13.9	11.4	74.7	1,453	15.1	10.1	74.7
1940-44	406	15.0	10.8	74.1	1,320	17.0	10.3	72.7
1935-39	293	14.0	7.8	78.2	1,155	13.7	10.0	76.3
1930-34	250	17.2	13.6	69.2	1,045	17.8	11.8	70.4
-1929年	141	25.5	15.6	58.9	891	23.1	12.9	64.0

注1：Nは不明を除く。

2：「-1929年出生コーホート」は、NFRJ03では「1926-29年」、第4回世帯動態調査では「1925-29年」である。

11-3 上から3番目までのきょうだい

NFRJ03でもNFRJ98でも、健在のきょうだいに限定し、健在で年長から順に3人目までのきょうだいについて、その属性や関係などをたずねている。NFRJ98ではそれぞれのきょうだいの性別、出生年、姓の異同、同別居、接触頻度、婚姻上の地位、そして家族の認知をたずねていた。NFRJ03ではきょうだいについても、親や配偶者などのほかの親族とほぼ同じ項目をとりあげている。すなわち、性別と出生年と接触頻度と婚姻上の地位をたずねている点はかわらないが、その他に、(単なる同別居ではなく) 居住距離と最終学歴、援助関係、さらに、トラブルやもめごとの経験と関係性の評価をたずねている。

詳細は巻末の基礎表にあるが、ここで年長から1番目、2番目、3番目のきょうだいのそれぞれの属性を確認しておく。

きょうだいは対象者とそれほど年齢差が大きい場合が多いことから、対象者に近い年齢層に分布している。なかでも最年長にあたる1人目のきょうだいをもっとも年齢が高いと思いがちだが、実際には1人目は幅広い年齢にわたっている。一方で、2人目は半数強が50歳代と60歳代に集中しており、3人目はさらに50歳代と60歳代に集中している。つまり、1人目より2人目、2人目より3人目に年長者が多くなっている。これは、3人以上のきょうだいがいる対象者が50歳代以上に多いからである。

こうした年齢分布を反映して、きょうだいの1番上より2番目、2番目より3番目の方が未婚者が少なく、既婚者が多い。

性別は男女ほぼ半々である。男女で違いがあるとはいえ、初等教育終了者の占める割合と短大以上の学校終了者の占める割合に着目すると、3人目より2人目、2人目より1人目の方が学歴が高い。

表 11-8 きょうだいの年齢層分布

	N	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明
1人目	5727	4.2	17.9	17.1	18.0	17.8	14.0	2.8	8.2
2人目	3800	5.0	11.4	13.4	23.2	22.7	12.1	1.0	11.2
3人目	2145	1.9	5.1	10.9	28.0	29.9	9.7	0.2	14.4

表 11-9 きょうだいの未既婚

	N	現在、配偶者がいる	配偶者とは離別・死別	結婚したことはない	不明
1人目	5727	73.4	13.5	11.6	1.4
2人目	3800	75.1	12.6	10.6	1.7
3人目	2145	76.6	11.9	8.1	3.4

表 11-10 きょうだいの性別

	N	男性	女性	不明
1人目	5727	48.3	51.2	0.5
2人目	3800	47.2	51.8	1.0
3人目	2145	48.5	49.1	2.4

表 11-11 きょうだいの学歴

	N	未就学	中学校、 旧制小学校	高校、旧制 中学・高女	各種専門 学校 (高卒後)	短大・高専、 旧制高校	大学 (4年制)	大学院	不明
1人目	5727	0.1	23.7	41.5	7.5	7.9	16.3	1.1	1.9
2人目	3800	0.1	27.2	45.0	5.5	6.1	13.1	0.7	2.3
3人目	2145		30.9	45.6	5.0	3.9	10.6	0.4	3.6

居住地の分布をみると、3～4割が「片道1時間未満」のところ、3割前後が「片道3時間以上」かかるところ、2割前後が「片道3時間未満」のところである。「自分と同じ家屋」「同じ敷地内のはなれ・別棟」「となり」に住んでいる者はごくわずかにすぎない。「歩いていけるところ」とかなり近くに住んでいるきょうだいも1割もない。2人目、3人目になるほど年長者であるためか、2人目、3人目ほど遠方に住んでいる傾向にある。しかしながら、「同じ家屋」から「片道1時間未満」までをあわせると4～5割を占めており、必ずしも遠くにきょうだいが住んでいるとはいえない。

表 11-12 きょうだいの居住分布

	N	自分と 同じ 家屋	同じ敷地 内のはな れ・別棟	となり	歩いて いける ところ	片道1時 間未満の ところ	片道3時間 未満の ところ	片道3時 間以上の ところ	不明
1人目	5725	2.3	1.1	0.5	8.9	38.2	20.3	27.1	1.6
2人目	3800	1.6	0.9	0.4	7.3	36.0	20.7	31.3	1.8
3人目	2145	0.7	0.6	0.4	7.0	33.3	20.4	34.4	3.3

では、きょうだいとどのくらいの頻度で接触する機会があるのか。NFRJでは、直接の面会による相互作用ではなく、「話らしい話をする」頻度というたずねかたで、接触の頻度をきいている。

きょうだいとの接触の機会はそれほど多くないようである。対象者の半数前後が3人のいずれのきょうだいとも「年に数回」しか話らしい話をしていない。この接触頻度は上述した居住地と関連しており、片道1時間以上かかるところに住んでいるきょうだいとは6～7割が「年に数回」しか「話らしい話」をしていない。「片道1時間未満のところ」に住んでいるきょうだいとは、3割が「月に1～2回」、4割が「年に数回」と回答している。上述したように、半数弱のきょうだいは片道1時間かからないところに住んでいるが、話をする機会はお正月や祭事などの年中行事の時などに限られるケースがかなり多いようだ。

表 11-13 きょうだいと話らしい話をする頻度の分布

	N	ほぼ毎日 (週5～7回)	週に 3～4回	週に 1～2回	月に1～2回	年に数回	まったく なかった	不明
1人目	5727	3.9	3.6	9.8	24.7	48.1	8.8	1.1
2人目	3800	2.6	3.6	7.8	23.2	51.8	9.5	1.4
3人目	2145	2.3	2.1	6.3	20.7	55.0	11.0	2.7

NFRJ98 から NFRJ03 へ変更した第2点として、援助関係も「きょうだい」をまとめてたずねるのではなく、3人のきょうだいそれぞれについてたずねている。それも、金銭的な援助（小遣い、仕送り、贈与など）ならびに金銭以外の援助（相談にのってもらったり、看病や手伝いをしてもらうなど）それぞれの送り手、受け手としての経験の有無を4つの質問に分けてたずねている。

金銭的な援助関係は、「受けた」経験も「した」経験も、95%前後の者は経験がないと答えていた。その比率に男女、出生コーホートによる違いはない（表 11-14、11-15）。

表 11-14 きょうだいとの援助関係【金銭的な援助を受けた経験】

	N	受けた(年間30万円以上)	受けた(年間30万円未満)	受けなかった	不明
1人目	5727	0.7	3.5	94.7	1.1
2人目	3800	0.5	2.5	95.7	1.3
3人目	2145	0.5	1.5	95.2	2.8

表 11-15 きょうだいとの援助関係【金銭的な援助をした経験】

	N	した(年間30万円以上)	した(年間30万円未満)	しなかった	不明
1人目	5727	1.1	4.1	93.5	1.3
2人目	3800	0.7	3.3	94.5	1.6
3人目	2145	0.4	2.1	94.6	2.9

金銭以外の非経済的な援助も、87%の者が「受けた」経験も「した」経験もない。大多数の者はきょうだい間での援助は、金銭的な面でも金銭以外の面でもないといえる。ただし、金銭的な援助に比べれば金銭以外の援助経験がある者は1割強と多い。金銭以外の援助は、「受けた」経験がある者も「した」経験がある者も、それぞれ1割前後いる。また、金銭的な援助では男女の間に相違がなかったが、金銭以外の援助は男性より女性で経験者が多い。その点は、「受けた」面でも「した」面でも同じである。

表 11-16 きょうだいとの援助関係【金銭以外の援助】

	N	【受けた経験】			【した経験】		
		受けた	受けなかった	不明	した	しなかった	不明
1人目	5727	14.3	84.7	1.0	13.5	85.1	1.3
2人目	3800	10.1	88.7	1.3	9.8	88.6	1.6
3人目	2145	7.4	90.1	2.6	7.8	89.4	2.8

トラブルやもめごと、なかつた者が94%と多数を占めている。援助やトラブルからみると、きょうだいとの関係はあまり活発ではないようすがうかがえる。

しかしながら、関係性の評価は決して低くない(表 11-18)。66%の者が「良好」、26%の者が「どちらかといえば良好」と答えている。関係性が密ではないからこそ良好な関係でいられるのかもしれない。

表 11-17 きょうだいとのトラブルやもめごと

	N	何度もあった	時々あった	まれにあった	なかった	不明
1人目	5727	0.5	1.0	3.5	93.5	1.5
2人目	3800	0.3	1.0	2.3	94.6	1.8
3人目	2145	0.4	0.3	1.8	94.1	3.3

表 11-18 きょうだいとの関係

	N	良好	どちらかといえば良好	どちらかといえば悪い	悪い	不明
1人目	5727	65.2	26.7	4.1	2.3	1.7
2人目	3800	67.3	24.9	3.6	2.3	1.9
3人目	2145	64.9	25.4	4.0	2.3	3.4

11-4 きょうだいの総体の属性

健在で年長から順に3人目までのきょうだい3人のべ回答を合計して、きょうだいをまとめてみた様相を報告しておく。

対象者の性別ならびに年齢コーホート別にきょうだいの年齢層を10歳幅でみると、きょうだいの年齢が近いことから、表11-19のような分布になっている。

表 11-19 きょうだいの年齢層分布

	N	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明
男性									
全体	5457	4.0	11.9	13.7	21.1	22.2	13.1	1.8	12.1
28-32歳	376	48.9	46.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1
33-37歳	376	7.4	69.1	16.2	0.3	0.0	0.0	0.0	6.9
38-42歳	393	1.5	44.8	44.3	3.3	0.0	0.0	0.0	6.1
43-47歳	407	0.5	9.8	56.8	25.6	1.0	0.0	0.0	6.4
48-52歳	594	0.0	0.5	32.2	45.6	5.9	0.3	0.0	15.5
53-57歳	810	0.0	0.1	9.9	46.9	25.6	3.6	0.0	14.0
58-62歳	767	0.0	0.0	1.2	30.6	39.2	13.8	0.9	14.2
63-67歳	774	0.0	0.0	0.6	14.9	44.1	25.3	2.2	12.9
68-72歳	686	0.0	0.0	0.0	4.4	35.6	37.8	5.5	16.8
73-77歳	292	0.0	0.0	0.3	2.1	29.5	42.1	12.0	14.0
女性									
全体	6197	4.0	15.0	15.7	21.9	21.0	12.2	1.8	8.7
28-32歳	461	40.9	56.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
33-37歳	513	10.1	68.0	17.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9
38-42歳	541	1.8	42.1	46.8	3.0	0.0	0.0	0.0	6.3
43-47歳	515	0.0	13.6	56.9	22.5	1.6	0.0	0.0	5.4
48-52歳	704	0.0	1.7	32.5	53.4	8.4	1.1	0.0	2.8
53-57歳	878	0.0	0.0	10.1	46.5	32.3	3.5	0.1	7.4
58-62歳	913	0.0	0.0	0.9	32.5	39.8	15.4	0.7	10.7
63-67歳	690	0.0	0.0	0.3	15.5	44.2	28.1	1.7	10.1
68-72歳	605	0.0	0.0	0.0	5.1	35.7	36.5	6.0	16.7
73-77歳	377	0.0	0.0	0.0	1.6	17.8	42.4	14.3	23.9

同じく健在で年長から3人目までのべきょうだいについて、居住地の分布をみると(表11-20)、もっとも若い28-32歳のコーホートでは未婚者が含まれることから、男女とも1割前後のきょうだいと同居している。それ以上の年齢にある者たちでは、「自分と同じ家屋」「同じ敷地内のはなれ・別棟」「となり」に住んでいる者はごくわずかにすぎない。「歩いていけるところ」とかなり近くに住んでいるきょうだいも1割もおらず、大多数は

離れたところに住んでいる。もっとも多いのは「片道1時間未満」のところで、各コーホートで4割前後を占めている。ただし、男性の68歳以上の年齢層では「片道3時間以上」かかるところに住んでいるきょうだいの方が多い。

表 11-20 きょうだいの居住分布

	N	自分と 同じ家屋	同じ敷地 内のはな れ・別棟	となり	歩いて いける ところ	片道1時 間未満 のところ	片道3時 間未満 のところ	片道3時 間以上 のところ	不明
男性									
全体	5457	2.0	1.1	0.5	8.8	34.6	19.5	31.2	2.3
28-32 歳	376	12.8	1.9	1.1	6.9	35.9	17.0	22.1	2.4
33-37 歳	376	6.1	1.3	0.0	6.6	41.0	15.4	28.5	1.1
38-42 歳	393	3.3	1.8	0.3	6.4	39.9	20.9	27.2	0.3
43-47 歳	407	1.2	1.0	0.5	6.9	38.6	18.7	32.4	0.7
48-52 歳	594	1.2	0.8	0.7	9.1	34.8	19.0	31.6	2.7
53-57 歳	810	0.7	2.0	0.7	10.2	34.4	18.1	30.7	3.0
58-62 歳	767	0.3	0.3	0.5	9.0	34.8	19.0	34.4	1.7
63-67 歳	774	0.1	0.6	0.1	9.3	31.8	24.5	30.6	2.8
68-72 歳	686	0.4	0.7	0.3	10.9	30.3	18.7	36.7	1.9
73-77 歳	292	0.3	0.7	0.3	8.9	29.8	21.9	31.2	6.8
女性									
全体	6197	1.6	0.8	0.4	7.3	38.3	21.3	28.6	1.7
28-32 歳	461	9.5	0.7	0.7	9.3	39.7	18.9	20.0	1.3
33-37 歳	513	3.7	0.8	0.0	6.4	42.9	17.5	28.3	0.4
38-42 歳	541	1.5	1.7	0.2	7.2	36.4	19.8	31.8	1.5
43-47 歳	515	0.4	0.8	0.4	8.2	37.9	24.9	26.8	0.8
48-52 歳	704	0.4	1.1	0.1	6.3	38.8	23.2	28.8	1.3
53-57 歳	878	0.3	0.3	0.2	7.1	42.1	20.8	28.1	0.9
58-62 歳	913	1.1	0.5	0.3	6.0	36.1	21.9	30.9	3.1
63-67 歳	690	0.6	1.0	0.7	6.7	37.1	20.9	31.0	2.0
68-72 歳	605	0.5	0.2	0.8	8.6	34.2	22.6	29.9	3.1
73-77 歳	377	1.1	1.3	0.3	9.8	38.5	21.0	25.7	2.4

接触頻度は男女で差があり（表 11-21）、男性では 56%と半数以上のきょうだいと「年に数回」しか「話らしい話」をしていない。ついで多いのが「月に1～2回」で2割を占め、「まったくなかった」という者も1割を上回っている。これらをあわせると9割近くこのぼり、きょうだいとの接触は決して頻繁とはいえない。

女性でももっとも多いのは「年に数回」であるが、その比率は46%にとどまる。女性では「月に1～2回」以上接触しているきょうだいが男性の場合より多く、男性より女性の方がきょうだいとの接触は多いといえる。居住地に性別による差がみられなかったことから、親族ネットワークに関する先行研究で指摘されているように、男性より女性の方が親族関係へのコミットメントが強いことのあらわれかもしれない。

対象者の出生コーホートに着目すると、接触頻度は若年出生コーホートで高く、中年以上のコーホートで疎遠な傾向が認められるが、これには居住地が関連しているものと思われる。

表 11-21 きょうだいと話らしい話をする頻度の分布

	N	ほぼ毎日 (週5~7回)	週に 3~4回	週に 1~2回	月に1~2回	年に数回	まったく なかった	不明
男性	5457	2.8	2.3	6.1	19.9	55.9	11.2	1.7
女性	6197	3.5	4.2	10.6	26.7	45.8	7.9	1.3

先に、金銭以外の援助経験において男女で差が認められると指摘した。これをきょうだいのべ数で確認すると、表 11-22 の通りである。男性では金銭以外の援助を「受けた」経験も「した」経験もそれぞれある者は8%にすぎないが、女性ではその比率は15%前後である。

表 11-21 きょうだいとの援助関係【金銭以外の援助】

	N	【受けた経験】			【した経験】		
		受けた	受けなかった	不明	した	しなかった	不明
男性	5457	7.9	90.5	1.6	8.1	90.0	1.8
女性	6197	15.0	83.8	1.2	14.1	84.4	1.5

11-5 小括

NFRJ98 から NFRJ03 への大きな変更点は、兄、姉、弟、妹にわけてそれぞれの人数をきいている点、年長から3番目までのきょうだいの一人ひとりについて詳細な情報を収集している点である。

健在のきょうだい人数は平均3.2人で、若年のコーホートほど少なかった。男性の5~7割が長男で、その割合は若いコーホートで高い。女性では6~7割に男兄弟がおり、姉妹だけのなかでの長女が2割前後、長女以外が1~2割を占めていた。これらの結果は「世帯動態調査」の結果とほぼ合致していた。ただし、NFRJ98とは質問方法を変更していることから、比較には慎重を要すると指摘した。

つづいて、上から3番目までのきょうだいの状況を確認した。3人以上のきょうだいがいる対象者が50歳代以上に多いことを反映して、1人目より2人目、2人目より3人目のきょうだいの方が年長者が多い。

きょうだいの3~4割が「片道1時間未満」のところに住んでおり、片道1時間かからないところに住んでいる場合があわせて半数弱を占めている。一方で、3割前後が「片道3時間以上」かかるところに住んでおり、遠方にいるきょうだいも相当いる。対象者の半数前後は、3人のいずれのきょうだいとも「年に数回」しか話らしい話をしていない。きょうだいとの接触の機会はそれほど多くないようである。この接触頻度には男女で差があり、女性の方が男性より接触頻度が高かった。

金銭的な援助も金銭以外の援助も、「受けた」経験も「した」経験もない者が9割を占めている。大多数の者はきょうだい間での援助は、金銭的な面でも金銭以外の面でもないといえる。ただし、金銭的な援助に比べれば金銭以外の援助経験がある者は1割強と多い。また、金銭的な援助では男女の間に相違がなかったが、金銭以外の援助は「受けた」経験

も「した」経験も男性より女性が多い。

トラブルやもめごと「なかった」者が94%と多数を占めており、援助やトラブルからみると、きょうだいとの関係はあまり活発ではないようすがうかがえた。しかしながら、関係性の評価は決して低くなかった。